巻頭コラム

近隣諸国（中国・韓国・北朝鮮）と日本

平成29年8月19日現在、北朝鮮の『俺たちはちょっと危ないぜ！作戦』によって、日本を含む数カ国が脅され続けている。困ったものだ。今回は隣国との安全保障について考えてみる。

若者の皆さん、日本はガチンコで戦ったアメリカとは仲が良く、友好的な関係である。そんな中、戦時中のことをどうこう言ってくるのは、中華人民共和国、韓国、北朝鮮の3カ国だけだ。

そもそも、日本は先の大戦では中華民国の国民党と戦った。終戦後、ヘロヘロになった国民党を後ろから襲い、中華人民共和国を建国したのが中国共産党である。つまり、日本は中華人民共和国と戦っていない。

約千年間中国の属国として国土が荒れていた朝鮮半島を救おうと、1910年より整備をしていたのが日本。韓国や北朝鮮の独立も戦後である。同様に台湾も整備していた。いまだに台湾人は日本に感謝している。戦後、独立を果たしたインド、インドネシア、マレーシアなどの、アジアの多くの国も日本に感謝している。

では中華人民共和国、韓国、北朝鮮だけがなぜ反日なのか。先の大戦では国として戦っていない劣等感から、日本に劣等感を植え付けて、自分たちが優位に立つという「外交作戦」をしているに過ぎないのだ。

中国人の特徴は、個人では知的で静か。ところが集団となると様子が変わる。カナダやアメリカ、イタリア、日本での中国人の実態を見ると、一人が親族を呼び、仲間を呼び、気づけば町の人口の半数が中国人。商売が上手く、次第に商店街を仕切り、選挙権などの権利を主張していく。そして、街を乗っ取る。これがパターンだ。個人が日本にきて楽しくやる分には良いのだが、組織立って、国の安全を犯すのならば、すぐに規制すべきである。

北朝鮮は国が生き延びるために国家予算を軍事費に使い込み、アメリカにも届くミサイルを開発し、実験を成功させている。そもそも朝鮮戦争（1950～）は休戦協定が結ばれたに過ぎない。もしも北朝鮮が日本にミサイルを着弾させたなら、休みは終わり戦争が再開されるということだ。核兵器が使われたら、日本はトンデモないことになるが、北朝鮮は数時間後には壊滅である。日米やその他の協力国が絶対に許さない。だから、北朝鮮がミサイルを着弾させてくる確率はかなり低いと見ているが安心はできない。各地方自治体では「弾道ミサイル落下時の行動について」をWEBで掲載しているので一度目を通しておくと良いだろう。

韓国は、北朝鮮にべったりの文在寅（ムン・ジェイン）が大統領になった。朝鮮半島が統一となれば日本の防衛線は対馬になる。韓国は、嘘っぱちの強制労働者とか、嘘っぱちの従軍慰安婦とか、デマを世界に言いふらすのを止めたほうがよい。世界の主要な国々は、韓国が嘘を宣伝し賠償金をとる作戦を見破っている。韓国も日本も、若手指導者がそのことに早く気づいて、建設的な関係を築くために頑張ってほしい。

国の将来を変えるのは、その国の若者である。若者が目を覚まさなければ、互いの関係も改善していかないのだ。特に、日本の若者には、近隣諸国によるレベルの低いプロパガンダに右往左往しないよう、知識と知性を身につける必要がある。

そして自国のグレードアップに力を注ぎ「くにまもり」をしていくのだ。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長
Murodate Isao **室舘 勲**

1971年青森県に生まれる。2003年株式会社キャリアコンサルティングを設立。2007年ブータン王国王立マネジメント大学にて講演。就活支援「プレミアムスタイル」は2017年4月入社の内定率99.38%を達成。著書に『夢を見て　夢を叶えて　夢になる』(致知出版社)、『まずは上司を勝たせなさい』(講談社)、『「応援される人」になりなさい』(ワック)がある。